



中国四国

<http://www.mod.go.jp/rdb/chushi/>

第**31**号
平成28年1月発行

中国四国防衛局長「年頭の挨拶」

2016年



出雲大社「御本殿」
(平成25年に60年ぶりの大遷宮が行われ、大屋根のふき替えが行われました)



菅原隆拓中国四国防衛局長

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
平素から中国四国防衛局へのご支援、ご協力を頂き、改めて感謝申し上げます。
管内には種々の課題が山積しておりますが、地元の皆様方のご意見に耳を傾け、地域の皆様と防衛省・自衛隊を結ぶ架け橋となるべく、職員一同より一層の努力を傾けてまいる所存です。
皆様方の変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



旧大社駅 (平成2年3月まで使用されていました)

CONTENTS

- ① 中国四国防衛局長「年頭の挨拶」
- ② 中谷防衛大臣、岩国市及び山口県を表敬訪問
- ③ 愛宕山野球場起工式
- ④ 中国四国防衛局長感謝状贈呈
(松江市長、安来市長、津山市長)
- ⑤ 中国四国防衛局長感謝状贈呈(企業6社)
- ⑥ 防衛大臣感謝状贈呈(前奈義町長)
- ⑦ 在日米軍従業員永年勤続者表彰式
- ⑧ 日米共同指揮所演習(YS-69)
- ⑨ 関係自治体への平成27年防衛白書の説明
- ⑩ セーフティ・ブリーフィング
- ⑪ 安心・安全共同パトロール
- ⑫ 島根県西部における米軍機の騒音等に係る意見交換会
- ⑬ 大竹市議会議員に対する説明会
- ⑭ 26年度計画潜水艦救難艦の起工式



中谷防衛大臣、岩国市及び山口県を表敬訪問

平成27年12月2日及び3日、中谷防衛大臣が岩国市長及び山口県知事等を表敬訪問し、KC-130の普天間飛行場から岩国飛行場への移駐完了について謝意を表明するとともに、空母艦載機の厚木から岩国への移駐について、引き続き、理解と協力を求めました。

岩国市役所



(中谷防衛大臣)



(福田岩国市長)

山口県庁



(村岡山口県知事)



(中谷防衛大臣)

左から、周防大島町岡村副町長、山口県議会畑原議長、中谷防衛大臣、山口県村岡知事、和木町米本町長

愛宕山野球場起工式

愛宕山野球場工事に係る起工式が平成27年10月15日、岩国市の愛宕山地区で行われ、中国四国防衛局から菅原隆拓局長、伊藤企画部長、紅林調達部長他、また、地元岩国市の福田良彦市長をはじめ、山口県関係者、ブシェー米海兵隊岩国航空基地司令官等が出席しました。

愛宕山地区は平成24年3月、米軍再編関連施設を整備するための用地として防衛省が山口県住宅供給公社から購入し、現在、空母艦載機の移駐に必要な家族住宅や運動施設の整備を行っており、今回の野球場建設はその一環として行われています。

野球場は、両翼100メートル、センター122メートルの規模を有しており、高校野球の公式戦を行うことが可能。施設の工事契約額は約46億円で、2017年頃に完成する予定です。

愛宕山地区の野球場をはじめとする運動施設については、岩国市と共同使用することとなり、岩国市民も利用できるため、日米交流の場となるような施設になることが期待されています。

起工式では、菅原局長が「岩国市と共同使用することとなるので、市民の方々に『良いものができた』と思ってもらえる施設となるよう努力していきたい」とあいさつ。福田市長は「市民の利用しやすい施設、日米双方の絆を深める貴重な機会が得られる場となることを期待している」と述べられました。

関係者による鍬入れの後、野球場の予定地で福田市長とブシェー司令官による始球式が行われるなど、終始、和やかな雰囲気での起工式を終えました。



菅原局長挨拶



関係者による鍬入れ



始球式



記念撮影

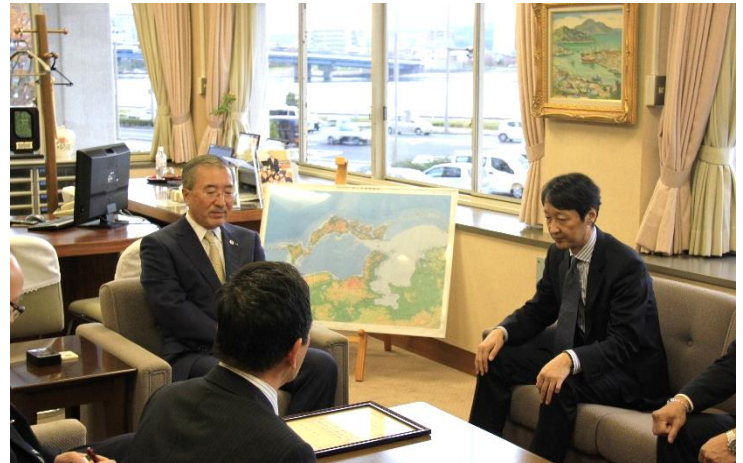
中国四国防衛局長感謝状贈呈(松江市長、安来市長、津山市長)

中国四国防衛局長感謝状は、当局業務の円滑な推進と防衛施設の安定的な運用に対し、積極的な協力と多大な貢献をされた方々を表彰するものです。

平成27年度自衛隊記念日にあたり、松浦松江市長、近藤安来市長、宮地津山市長に対して、菅原中国四国防衛局長から感謝状を贈呈しました。



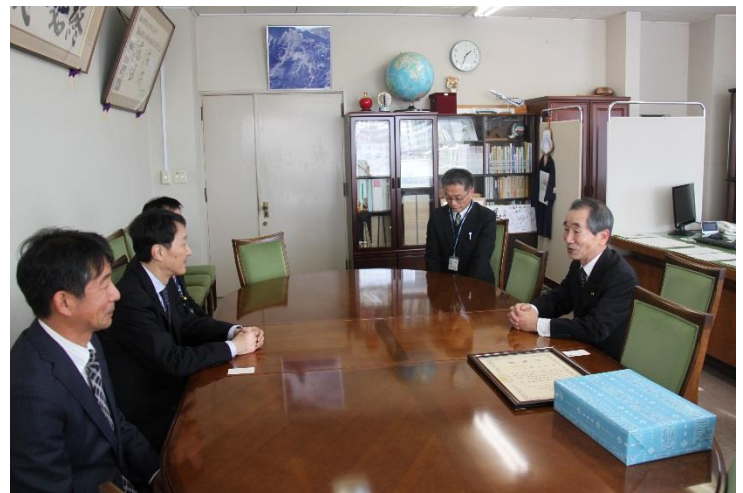
松江市長(写真右)に感謝状贈呈



松江市長(写真中央)と懇談



安来市長(写真右)に感謝状贈呈



安来市長(写真右)と懇談



津山市長(写真左)に感謝状贈呈



津山市長(写真左)と懇談

中国四国防衛局長感謝状贈呈(企業6社)

岩国飛行場米軍再編事業及び自衛隊施設整備事業の建設工事において、重要な施設を完成させ、我が国の防衛に対する深い理解のもと、当局の業務遂行に積極的に協力されたとして、菅原中国四国防衛局長から感謝状を贈呈しました。

対象企業・工事

- | | |
|------------------------|------------------------------|
| ・井森興業 株式会社 | 〈岩国飛行場(H24)低層住宅(桜通東8)新設建築工事〉 |
| ・安本建設 株式会社 | 〈岩国飛行場(H24)低層住宅(桜通東8)新設建築工事〉 |
| ・株式会社 藤川興業所 | 〈岩国飛行場(H23)整備格納庫(A)新設土木工事〉 |
| ・株式会社 日立プラントサービス中国支店 | 〈岩国飛行場(H23)整備格納庫(A)新設機械工事〉 |
| ・五洋建設 株式会社中国支店 | 〈呉(24)係船堀係留施設整備工事〉 |
| ・株式会社 IHIインフラシステム中国営業所 | 〈呉(24)係船堀係留施設整備工事〉 |



井森興業株式会社



安本建設株式会社



株式会社藤川興業所



株式会社日立プラントサービス
中国支店



五洋建設株式会社
中国支店



株式会社IHIインフラシステム
中国営業所

防衛大臣感謝状贈呈(前奈義町長)

平成27年10月17日、グランドヒル市ヶ谷(東京都新宿区)において、平成27年度防衛大臣感謝状の贈呈式が挙行されました。防衛大臣感謝状は、防衛協力功労や自衛官募集で功績があった方々を表彰するもので、今年度は個人64名、団体70件に中谷防衛大臣から感謝状が贈呈されました。

当局関係では、防衛施設の安定的運用に多大な貢献をされた防衛協力功労者として、花房昭夫前奈義町長に感謝状が贈呈されました。



中谷防衛大臣(写真左)と花房前奈義町長(写真右)



中島地方協力局長(写真左)と花房前奈義町長(写真右)

在日米軍従業員永年勤続者表彰式

米陸軍第10地域支援群弾薬廠



ムーア廠長(写真中央)

米海兵隊岩国航空基地



ブシェー司令官(写真上)



表彰を行う菅原局長

平成27年10月7日及び22日、在日米陸軍第10地域支援群弾薬廠及び米海兵隊岩国航空基地に勤務する在日米軍従業員の永年勤続者表彰式が、それぞれ開催されました。江田島市長をはじめとする関係各市等来賓のご臨席を賜り、勤続40年、30年、20年及び10年を迎えた130名の受賞者へ局長及び司令官から表彰状並びに記念品が授与されました。終始和やかなムードで式典は進行し、式典終了後には出席者の方々の懇親会が行われました。

日米共同指揮所演習 (YS-69)

中谷防衛大臣来幕



高官討議



中国四国防衛局は、12月1日から同月12日までの間、伊丹駐屯地(兵庫県伊丹市)において実施された日米共同指揮所演習 (YamaSakura69)に参加しました。

なお、「YamaSakura」については、在日米陸軍のシンボルである「富士山」と陸上自衛隊のシンボルである「桜」に由来しています。

この演習は、「武力攻撃事態」における仮想の状況を想定し、方面軍レベルの指揮官の判断能力や、幕僚調整能力の向上を目的とし、陸上自衛隊と米陸上部隊がそれぞれの指揮系統に従って行う各種活動を、コンピュータ上で訓練するものであり、本訓練は昭和57年から69回目、中部方面隊では4年ぶり4回目の実施となります。

中国四国防衛局は、近畿中部防衛局、東海防衛支局職員とともに24時間態勢で参加し、地方防衛局の主要な役割である地方公共団体との連絡調整業務、土地の提供、物品・役務の調達、損失補償等に係る多くの状況付与がなされる中、武力攻撃事態における手続・調整等について演練しました。

また、訓練中に防衛局天幕を訪れた中谷防衛大臣から参加職員に対し激励を受けました。

なお、今般の日米共同指揮所演習における調整結果を各地方防衛局で共有し、武力攻撃事態における地方防衛局の練度向上を図るべく、演習参加局以外の地方防衛局職員に対して、研修を実施しました。

調整の状況



研修者への説明



関係自治体への平成27年版防衛白書の説明

防衛白書は我が国の防衛政策に対する内外の理解を得るために毎年刊行しているもので、今年で41回目を迎えました。

中国四国防衛局は、自衛隊地方協力本部及び部隊と連携し、中国四国地方9県の全ての地方公共団体等に対し、平成27年版防衛白書の内容について説明を行っています。

平成27年版は、第Ⅰ部として「わが国を取り巻く安全保障環境」、第Ⅱ部は「わが国の安全保障・防衛政策と日米同盟」、第Ⅲ部「国民の生命・財産と領土・領海・領空を守り抜くための取組」、の三部構成となっており、文書だけでなく写真や図表を数多く使用し、一般の方に分かりやすくお伝えできるよう作成しております。

(徳島県知事への説明)



(愛媛県知事への説明)



(岩国市長への説明)



※ 平成27年版防衛白書は、防衛省のHPからご覧いただけます。
http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho_data/2015/w2015_00.html

セーフティ・ブリーフィング

米海兵隊岩国航空基地主催による「セーフティブリーフィング」が平成27年11月25日に同基地内サクラシアターで開催され、菅原中国四国防衛局長及び福田岩国市長が、海兵隊員に英語でブリーフィングを行いました。

セーフティブリーフィングは、基地内各担当者が夏及び冬の長期休暇などを前に基地に所属する隊員を対象に年2回、安全意識等の向上を図るために行われています。

当局は平成20年度から、岩国市は平成21年度より年1回参加しブリーフィングを行っております。

開催に当たってロバートV. ブシュー基地司令官は「岩国基地は地元と良好な関係を続けているが、事件・事故等があれば良好な関係に影響を及ぼすこととなる」などを述べ、注意を促しました。

菅原局長は、日米の地勢的、文化的な違いをはじめ、米軍構成員による事件・事故等が発生した場合の地域社会に与える影響や信頼関係の大切さ、地域住民との交流の意義などについて説明しました。

更に、一人ひとりの「良き隣人」としての目に見える行動が、岩国基地の安定使用と共に、同盟国としての任務を達成する上で非常に重要であることを述べ、理解を求めました。

福田市長からは、「基地と地域住民が友好的な関係を維持しながら、両国の安全保障政策上、岩国基地が安定的に運用されることが重要だ」と説明があり、また、今年10月に起工式が行われた愛宕山運動施設での、より多くの日米交流の場ができることに大きな期待感を示されました。



ブリーフィングの全景



ブリーフィング内容の一部



説明する菅原局長



説明する福田岩国市長

安心・安全共同パトロール

中国四国防衛局は平成27年12月4日夜、岩国市、山口県、米海兵隊岩国航空基地、地元防犯関係者と共同で、岩国基地近くの川下地区と岩国駅周辺の繁華街の麻里布地区の防犯パトロールを行いました。

街もクリスマスを控え活気づいているところ、菅原局長、福田市長、浅野県民局長、トマソン基地副司令官ら約50名が参加しました。

このパトロールは、岩国市民のくらしやすい安心・安全なまちづくりを推進するため、市民と行政、さらに基地関係者とが共働して安心・安全意識の向上を図るのが狙いで、平成21年8月に始まりましたが、本年1月以来、今回が6回目となります。

出発に際し、福田市長は「自らのまちは自分らで守るという意識を高めるために始まった。クリスマス、忘年会、新年会のシーズンを迎える時期にパトロールを行うことは非常に意義がある」、菅原局長は「中国四国防衛局としても岩国市からの安心安全の要望をいただいております、今後もこうした安心安全パトロールを含め、しっかりと各種施策を行っていく」と述べ、トマソン基地副司令官も「安心安全というのは、私たちの暮らすまちでもあるので、とても重要なことである。参加させていただきありがとうございます」とそれぞれ挨拶をしました。

一行は隊列を組み川下地区、麻里布地区の順にパトロールをし、途中、通行人たちに『くらしやすい安心・安全なまち』を！』と書いたチラシを配りながら、市民へ安心・安全意識の向上を呼びかけました。

(川下地区のパトロール)



(麻里布地区のパトロール)



(配布チラシ)

『くらしやすい安心・安全なまち』を！

～安心・安全共同パトロール実施中～

私たちは、岩国市に住む全ての人々がくらしやすい安心・安全なまちづくりを目指しています。

くらしやすい安心・安全なまちづくりを推進するためには、「自らの地域は自らを守る」という連帯意識のもと、市民の皆さんと行政とが共働して防犯活動を進めることが必要です。

こうしたことから、本日、岩国市長をはじめ、山口県、中国四国防衛局及び米海兵隊岩国航空基地が共同して、『安心・安全共同パトロール』を実施しています。この『安心・安全共同パトロール』は、地域に住む人々自らが地域ぐるみで取組を行っていることを対外的にアピールし、防犯意識を向上することが目的です。

本日の『安心・安全共同パトロール』をきっかけとして、市民の皆さん、行政、米軍が、自ら防犯意識を高め、お互いに協力して防犯活動を進めることによって、くらしやすい安心・安全なまちづくりを実現しましょう。



皆さんの御協力をお願いします。

岩国市
(連絡先 岩国市基地政策課 TEL29-5024)

島根県西部における米軍機の騒音等に係る意見交換会

平成27年10月6日、島根県浜田市役所講堂において、米軍機の騒音等に係る意見交換が行われ、関係自治体から、久保田浜田市長を会長とする「米軍機騒音対策協議会」参加3市2町(浜田市、益田市、江津市、邑南町、川本町)及び島根県の各首長等が出席し、当局からは、菅原局長ほか担当職員が出席しました。

冒頭の挨拶で、久保田浜田市長が、「意見交換の場を設けることで、米軍機騒音対策協議会、島根県、中四局が共通認識を図り、一緒に取り組むことで状況の改善に生かしてまいります。」と述べられ、菅原局長は、基地の安定的運用に関する御理解と御協力に謝意を表し「地元の皆様から直接意見を伺い、情報を交換・共有することにより、地元の皆様が置かれている状況について理解を深めたい。」と述べました。

その後、各首長等が、地元の現状を述べるとともに質問や要望が出され、菅原局長ほか担当職員が説明・応答、約1時間の有意義な意見交換が行われました。

最後に、邑南町桑野副町長から、「今後、このような場を関係自治体トップに限らず、事務レベルにおいても適宜開催すること」について、提案があり、出席者全員の了解を得て、意見交換は終了しました。



大竹市議会議員に対する説明会

平成27年11月27日(金)、「大竹市議会基地周辺対策特別委員会」において、当局企画部長をチーフに各担当者から、当省の補助金制度等について説明しました。当日は、同委員会所属の議員のほか8名の議員及び大竹市長、副市長、教育長も傍聴しました。

当日の主な説明内容は、①「空母艦載機の岩国飛行場への移駐等について」②「防衛施設周辺対策事業について」③「再編交付金等の概要について」④「岩国基地騒音訴訟について」の4項目です。

当局としましては、今後も管内自治体等からのご要望があれば、説明会の開催を計画してまいります。



26年度計画潜水艦救難艦の起工式

(玉野防衛事務所)

平成27年10月21日、岡山県玉野市の三井造船(株)玉野事業所で26年度計画潜水艦救難艦(以下、「26ASR」という。)の起工式が行われ、中国四国防衛局から菅原隆拓局長、防衛補佐官金山1佐、玉野防衛事務所長野口1佐他、また、要求元の海上幕僚監部から装備計画部長佐伯将補が出席いたしました。式典では神主による神事が厳かに行われました。その中の「溶接行事」では、菅原局長が起工式用の鉄板(プレート)にサインを施し、溶接機械を作動させ、建造工事が開始されました。

「26ASR」は潜水艦救難母艦「ちよだ」の後継として計画され、基準排水量は5,600トン、潜水艦の事故発生時に乗員を救出するほか大規模災害時には医療支援・被災者支援等を行います。

今後は船台において船体ブロックを搭載、平成28年10月進水式を予定しています。そして、ぎ装工事を経て平成30年3月に横須賀の潜水艦隊に配備される予定です。

菅原局長は、「潜水艦救難艦は、遭難した潜水艦乗員を安全確実に救助する極めて重要かつ特殊な艦です。この艦の建造に際しては専門性が高く確実性の高い技術が求められます。三井造船の皆様が一丸となって、世界に誇る日本の潜水艦救難艦を建造されると確信しております。そのような立派な艦を造るため、中国四国防衛局も監督・検査において努力して参りたい。」と述べられました。



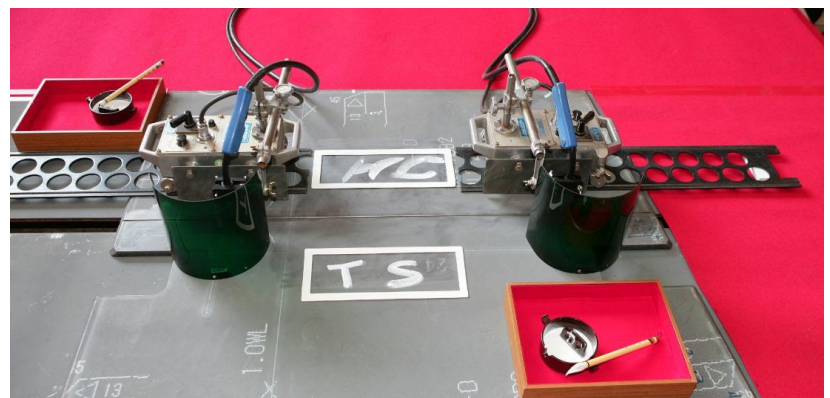
起工式典の様子



玉串奉奠を行う海幕装備計画部長



参列者の記念撮影



中国四国防衛局長のサイン(手前)